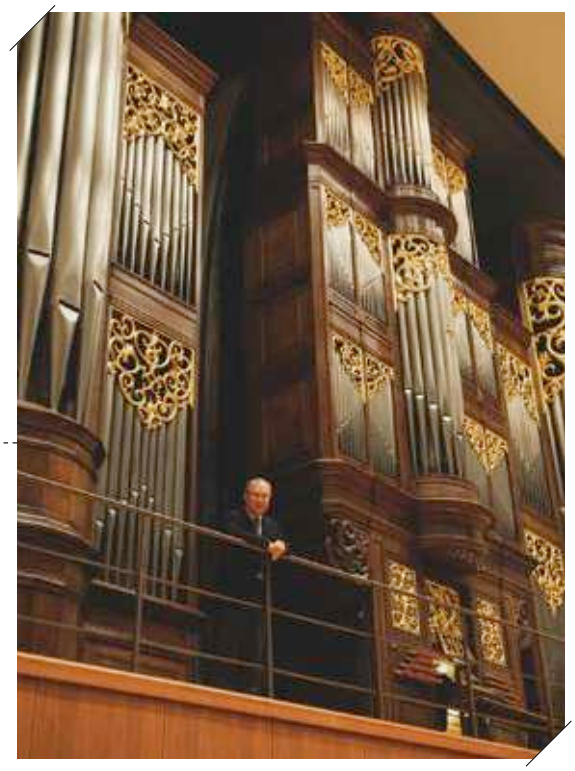
| Column |

ART & CULTURE around 芸劇

音の組み合わせは無限にある

interview

東京芸術劇場 オルガニスト **小林英之** さん 〈後編〉



コンサートホールには、約9000本のパイプを擁する世界最大級のパイプオルガンがある。180度回転すると別のオルガンが現れ、ルネサンス、バロック、そしてフランス古典からロマン派など、異なる時代の音色を再現できる珍しい構造だ。

専属オルガニストを務める小林英之さんはこう話す。

「東京芸術劇場では、いろいろな時代、地域の音を聴くことができます。ヨーロッパにはたくさんのオルガンがありますが、この時代のこの音を聴きたいと思ったら、遠く離れた教会へ旅しないと聴けなかったりする。ここでは座ったままで楽しめると、ヨーロッパのオルガニストが言っています」

オルガニストは、弾く曲に応じてオルガンを選び、ノブを調整して音色を変える。鳥の鳴き声やクリスマスのベルのような音を表現することも可能だ。

「音色を作るのがオルガニストの役目です。音の組み合わせは無限にありますから、同じ曲でも、演奏者によって全く違うものになります。楽譜はありますが、どのように音を選ぶかは演奏者に任されているのです」

小林さんは、「オルガンほど生で聴かないと分からないものはありません」と語る。

「一番低い音は録音できないのです。また、オルガンは建物に付随する楽器なので、一台も同じものはありません。是非ホールで体感していただきたいですね」

ランチタイム、ナイトタイムコンサートをはじめ、クリスマスやバレンタインといった季節のコンサートなど、小林さんは一年を通してオルガンを楽しむ公演を企画し、毎回プログラム解説を書く。訪れるうちに知識も深まり、オルガンの響きに魅了されていくことだろう。

Kobayashi Hideyuki

東京藝術大学音楽学部卒業、同大学院修了。ドイツ、フランクフルト音楽大学卒業。オーケストラでオルガン・パートを担当し、神奈川フィル、アンサンブル金沢、東京シティフィル、N響、新日フィル、東京都響の定期演奏会には、ソリストとして出演。また、東京芸術劇場をはじめ各地のホールでオルガン関連事業の企画を担当するほか、中学生、高校生あるいは一般愛好家を対象としたオルガンに関する啓発活動も積極的に行っている。現在、上野学園大学教授。

INFORMATION

東京芸術劇場では、劇場をご利用になるすべての方の安全と安心のため、新型コロナウイルス感染拡大防止に関する取り組みをおこなっています。ご来館される皆さまは、当劇場ウェブサイトの【東京芸術劇場における新型コロナウイルス感染症対策とご来館される皆さまへのお願い】や館内掲示されている注意事項などを、ご確認ください。

本号の発行が当初予定より遅れましたことをお詫び申し上げます。次号の発行は2020年10月1日を予定しています。

東京芸術劇場 Tokyo Metropolitan Theatre 30 Anniversary

東京芸術劇場は、1990年に開館し、今年、30周年を迎えます。
周年を記念し、ロゴ展開や記念事業の開催などを行っていきます。

新型コロナウイルス感染症にかかわる諸般の事情により、掲載情報に変更がでる場合がございます。
最新情報は、東京芸術劇場や各主催者のＨＰ等でご確認ください。

企画編集・発行／東京芸術劇場 事業企画課 広報営業係　企画編集／noi株式会社（殿井悠子、塚原沙耶）　校閲／森谷仁美
写真／濱津和貴（表紙、P1-2、P14）　デザイン／REVEL46（志村正人）　印刷製本／株式会社技秀堂 ©公益財団法人東京都歴史文化財団 東京芸術劇場